

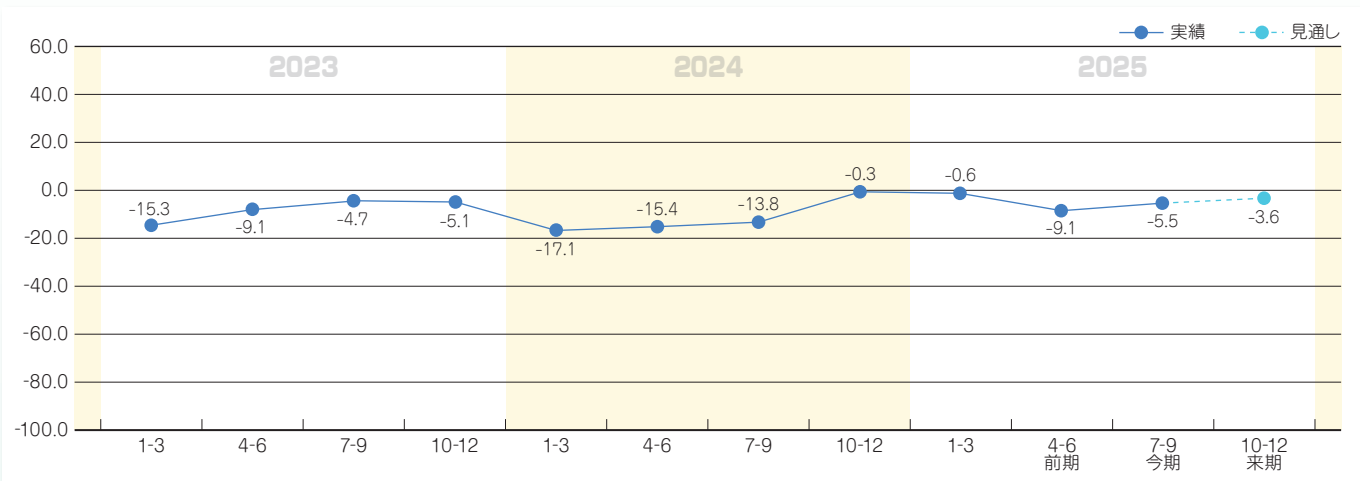


全業種

回答数326社

今期の業況D-Iは、前期比3.6ポイント上昇の▲5.5と改善した。業種別では、卸売業、小売業、建設・不動産業で改善した一方で、サービス業は悪化、製造業はほぼ横ばい。来期の予想業況D-Iは、1.9ポイント上昇の▲3.6と、やや改善の見通し。業種別では、製造業、小売業、建設・不動産業は改善、サービス業は横ばい、卸売業は悪化の見通し。

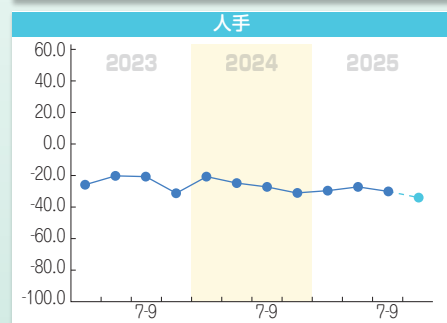
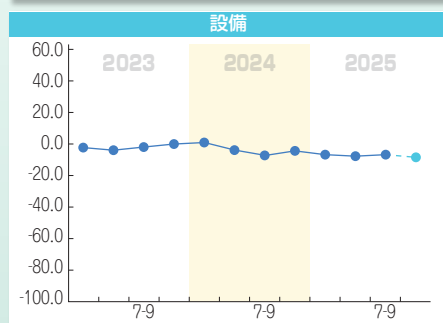
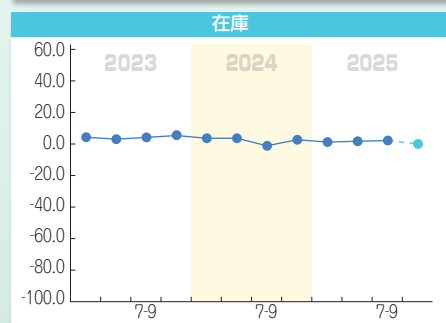
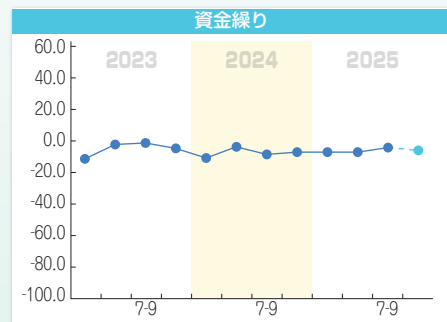
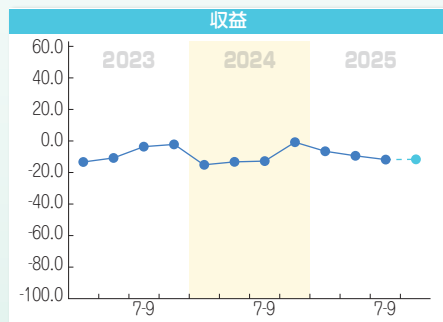
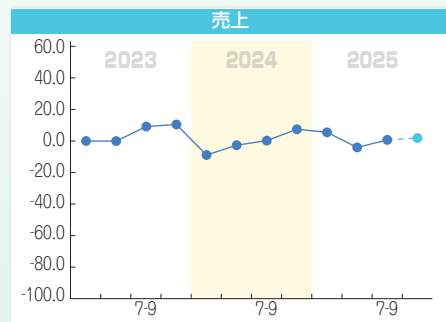
前期実績 今期実績 来期見通し

業況D-I
の推移

主要D-Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

実績 見通し



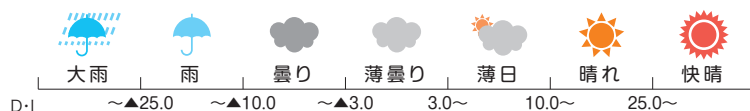
へきしん取引先景況調査とは

本調査は、地域および業種の景気実態および景気予測(景況)を把握するため、四半期ごとに当金庫の取引先企業様にアンケート調査を実施し、回答をいただいたものです。

調査
概要

実施時期 2025年9月1日～5日
対象企業 326社
対象地域 西三河および尾張南部を中心
とした当金庫の営業エリア

天気図の見方



D-I(ディフュージョン・インデックス)とは…業況(業界の景気)等を判断するための指数であり、(良いまたはやや良いと答えた割合)－(悪いまたはやや悪いと答えた割合)で求められます。

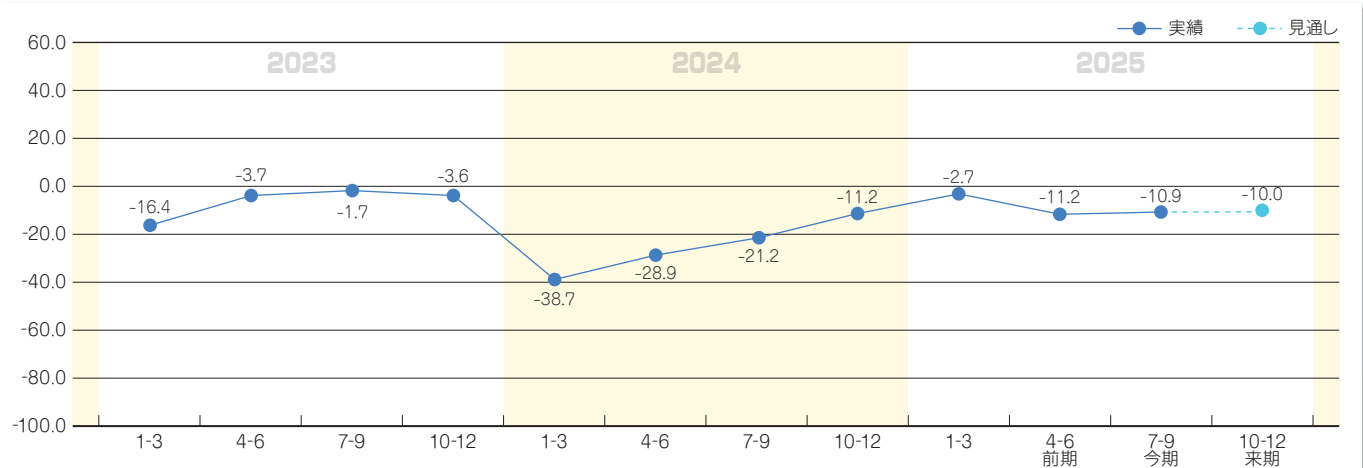


製造業

回答数119社

今期の業況D・Iは、前期比0.3ポイント上昇の▲10.9と、ほぼ横ばい。アメリカ関税政策の影響で受注が減少したとの声もある。来期の予想業況D・Iは、0.9ポイント上昇の▲10.0。わずかに改善が見込まれるが、コスト高や関税政策の影響など、不安要素が多い。

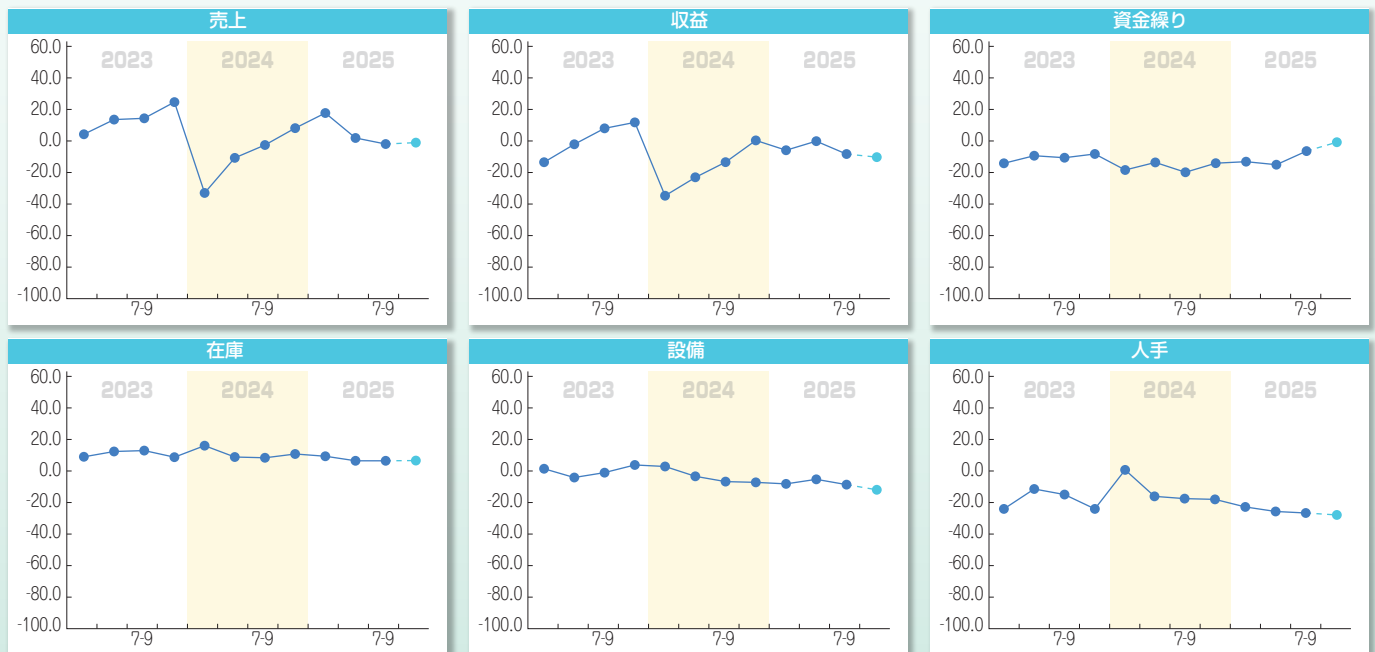
業況D・I
の推移



主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



- エネルギー高騰のなか、過剰在庫を造らないことを目標に受注生産に切り替えている。(煉瓦製造)
- 来期も受注見通しあり好調。自社のみでは対応できないため、外注費が増加する見込み。(オートバイ部品製造)
- 若い人材への技術承継に注力。(金属加工)
- EVシフトにより今後不要になる部品もあり、受注がとりづらくなっている。(自動車部品製造)



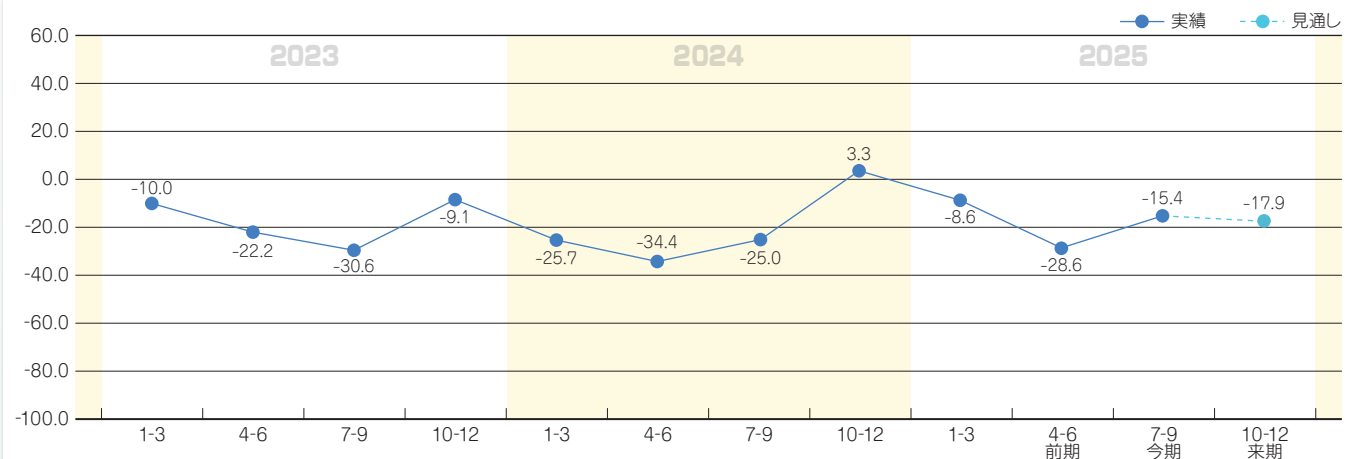
卸売業

回答数39社

今期の業況D・Iは、前期比13.2ポイント上昇の▲15.4と、3期ぶりに改善した。売上D・Iが改善した一方で、収益D・Iは3期連続で悪化。仕入価格上昇や人件費増加などにより収益が圧迫されているとの声が多い。来期の予想業況D・Iは、2.5ポイント低下の▲17.9とわずかに悪化の見通し。

前期実績 今期実績 来期見通し

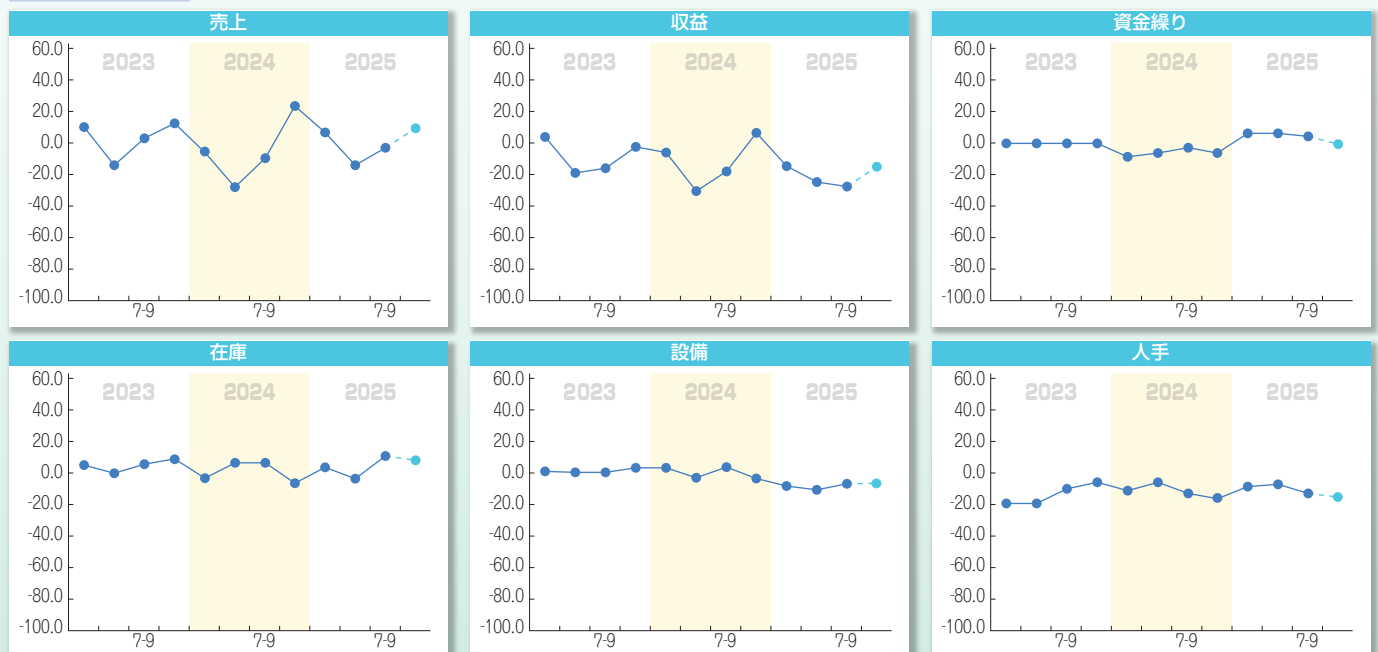
業況D・Iの推移



主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



- 販路開拓により売上は増加傾向だが、仕入価格上昇により利益率悪化。(食品卸売)
- 大手のホームセンターが職人向けに店舗を拡大しており、個人店の売上はかなり落ちている。(建築資材卸売)
- 人材不足に苦しんでいる。働きやすい環境確保のため、事務所建替えを検討中。(山砂等卸売)
- 業況安定している。新規事業展開も検討しており、積極的にビジネスマッチングなどに参加方針。(生コンクリート・セメント卸売)

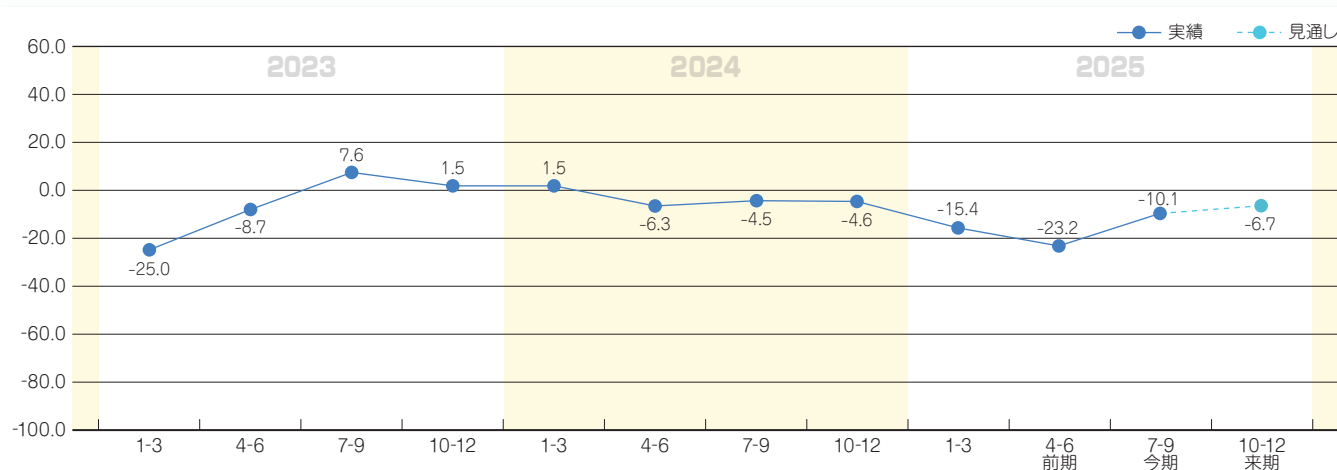
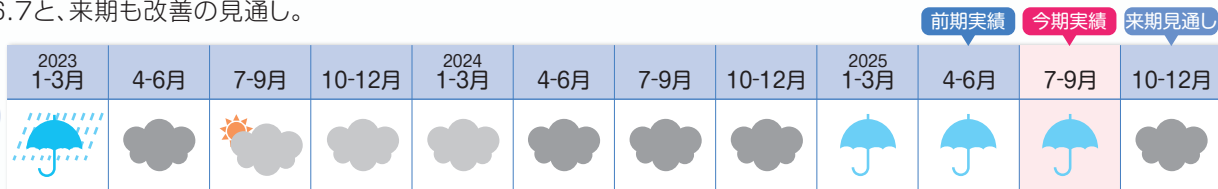


小売業

回答数60社

今期の業況D・Iは、前期比13.1ポイント上昇の▲10.1と、4期ぶりに改善。売上D・Iは改善傾向が続くが、収益D・Iは3期連続で悪化。多くの企業がコスト増加の影響を受けていることがうかがえる。人手不足感も強い。来期の予想業況D・Iは、3.4ポイント上昇の▲6.7と、来期も改善の見通し。

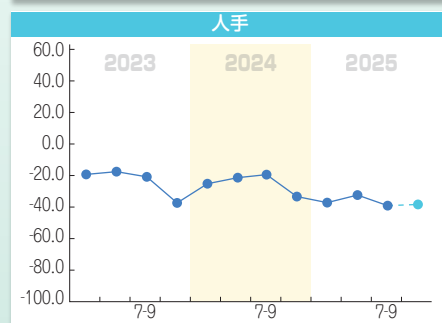
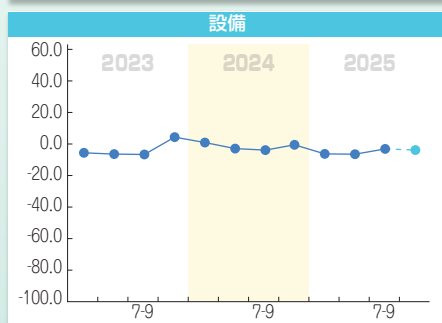
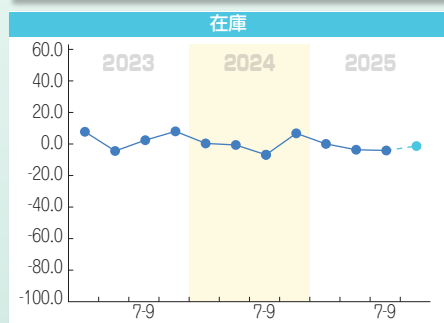
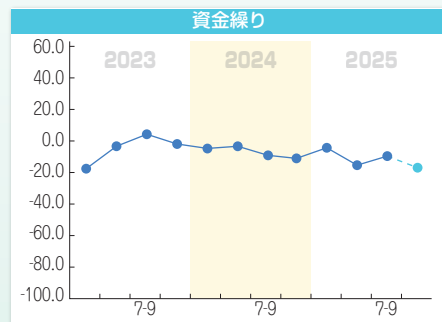
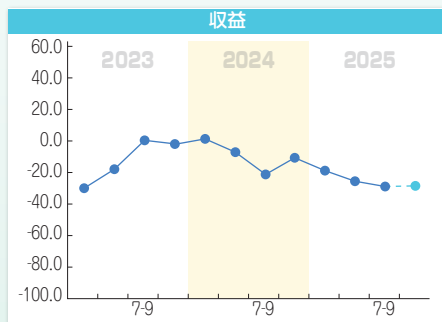
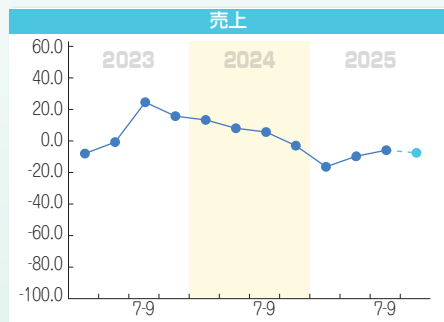
業況D・I
の推移



主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

●実績 ●見通し



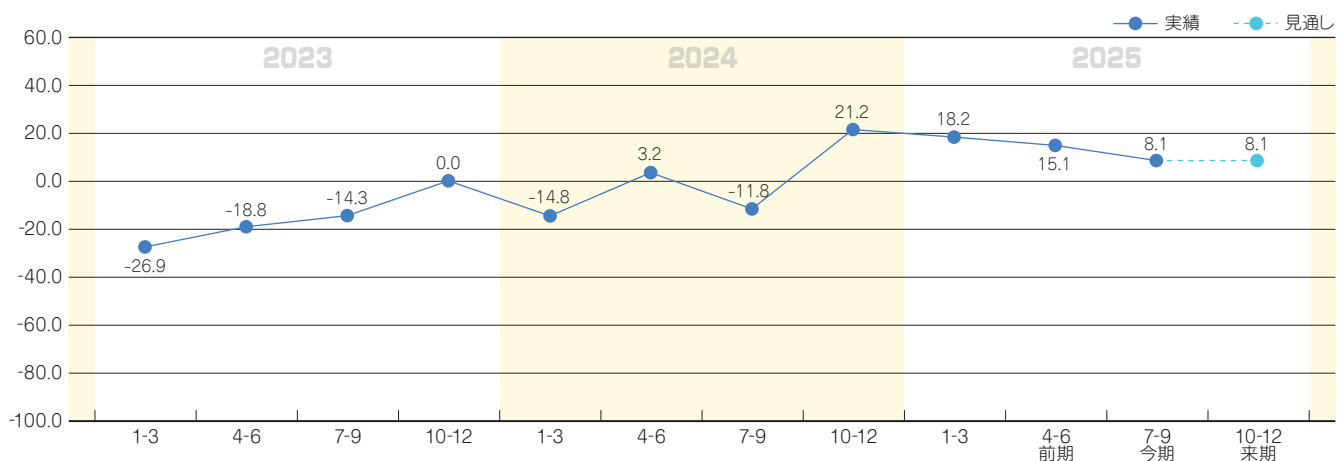
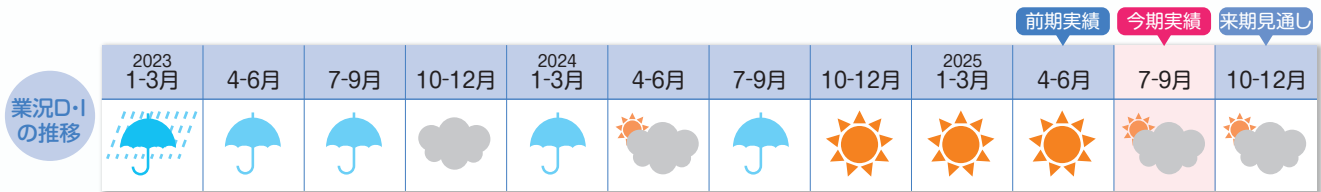
- 米不足、価格高騰の影響を受けるも、品揃え、既存顧客とのつながりという強みを生かし業況は横ばい。ビジネスフェアへの参加も意欲的に行い、新規顧客の獲得にも励んでいる。(米販売)
- 新たに展示場を作るなど売上増加に取り組んでいる。(自動車販売)
- 夏なのでエアコン修理などが増えた。依然販管費が高いのが悩み。(家電販売)



サービス業

回答数37社

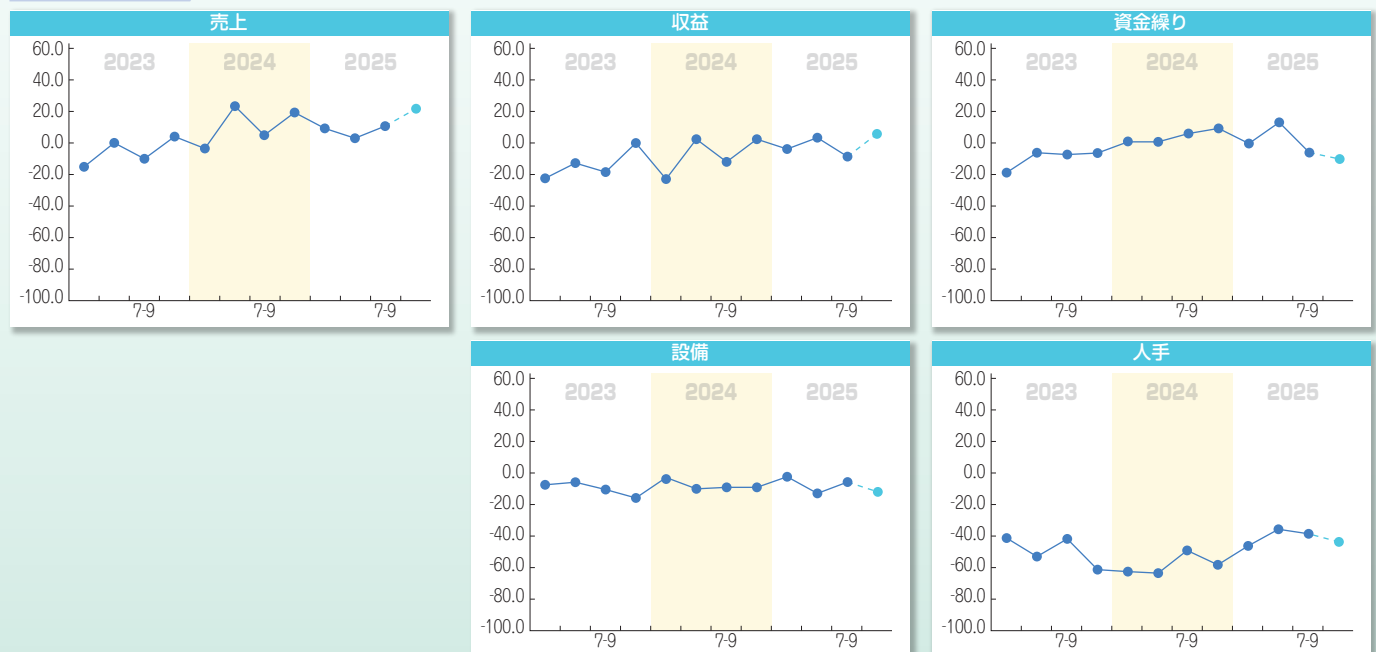
今期の業況D・Iは、前期比7.0ポイント低下の8.1。3期連続での悪化となるが、引き続きプラス圏で推移している。人手D・Iは前年比では大きく改善しているものの、依然として人手不足を課題とする企業が多い。来期の予想業況D・Iは8.1と、横ばいの見通し。



主要D・Iの推移

(注)設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



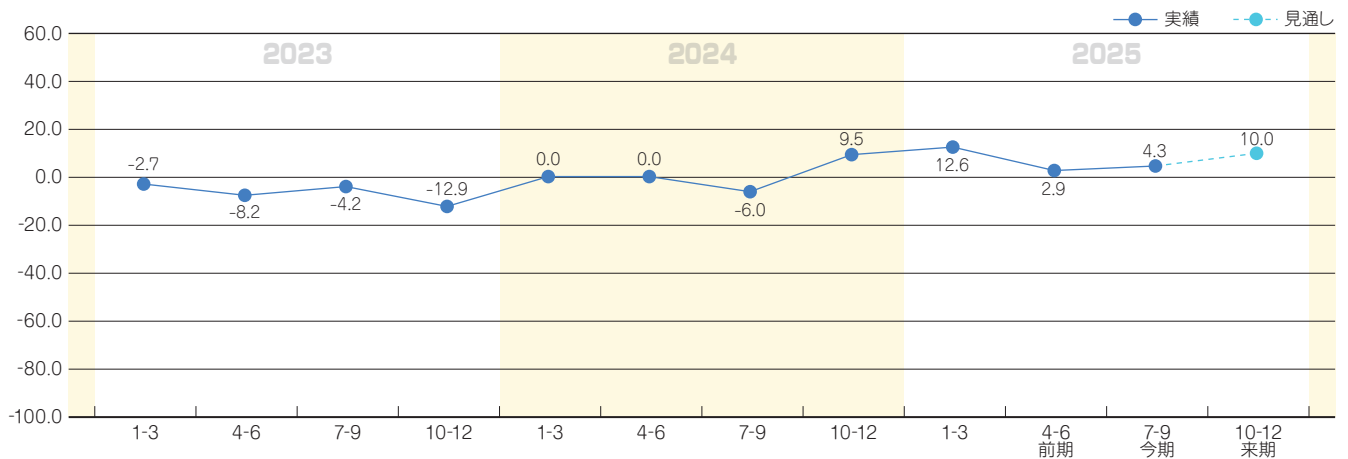
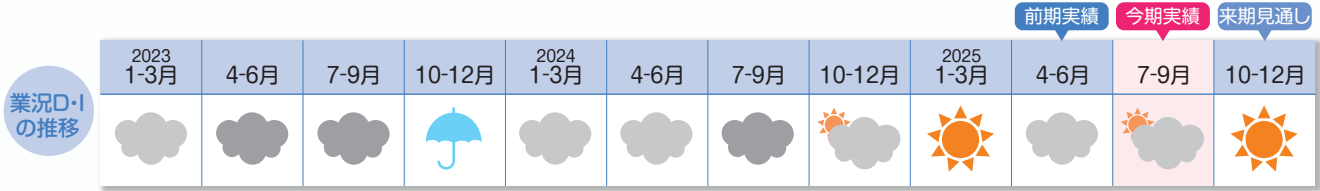
- 収益基盤の柱となる顧問契約数が減少。人件費をはじめとした費用増加から減収減益が予想される。(税理士法人)
- 整備料金の見直しを行い、利益率が一部改善した。(自動車整備業)
- セルフレジの導入など、省人化に取り組んでいる。(医療法人)
- 人手の確保と離職率の低下を目指している。(運送業)



建設・不動産業

回答数70社

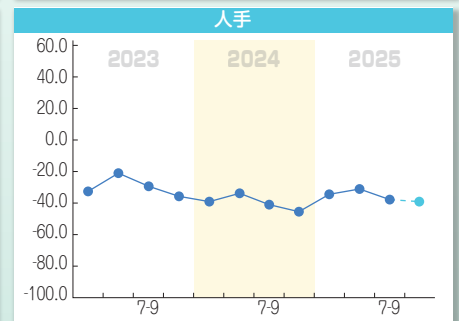
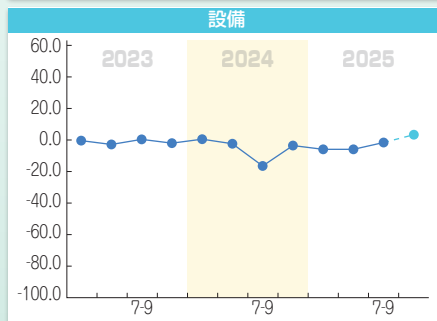
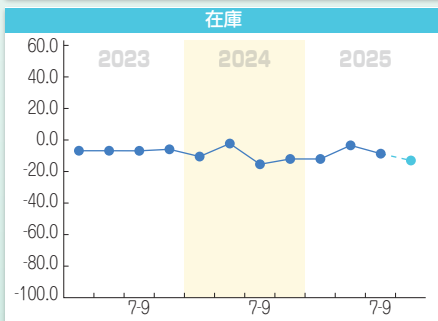
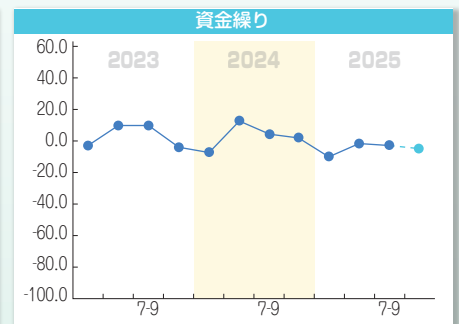
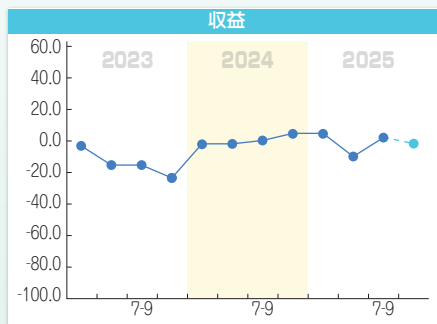
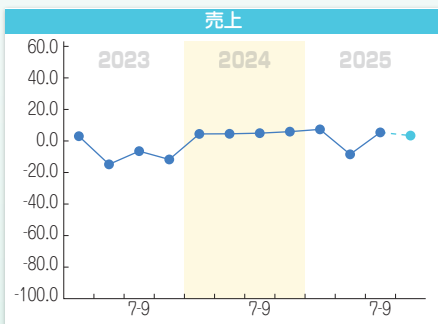
今期の業況D・Iは、前期比1.4ポイント上昇の4.3と、わずかに改善した。特に不動産業の業況が改善。建設業も業況は安定しているが、約半数の企業が人手不足を感じている。来期の予想業況D・Iは、5.7ポイント上昇の10.0と、来期も改善の見通し。



主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



- 工期が長期に及ぶことが多く、資金繰りを気にしながら経営している。価格転嫁はある程度できており、一定の利益は確保できている。(建築)
- 現場で人手不足の状況が続いている。(土木工事)
- 賃料収入は安定しているものの、引き続き家賃の引き上げ交渉をしていく必要あり。駐車場をキッチンカーに貸す等、新たな販路拡大を検討している。(不動産業)